

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2012年度 第1号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://www.keles.jp/> 2012年7月10日発行



巻頭言

“Help Us Help You Teachers Help Your Students Smile.”

関西英語教育学会会長 村田 純一（神戸市外国語大学）

今年の研究大会は、史上最高の参加者で大変盛り上がりしました。

これも前会長の吉田信介先生をはじめとする、KELESの役員、事務局の皆さんの尽力の賜物であり、深く敬意を表したいと思います。そのような中、私のような健康だけが取り柄の浅学非才の人物が畏れ多くも本学会の会長として務めさせていただくことになりました。本当に微力ではありますが、皆さんのご協力をいただきながら、会長としての役割を果たすため、自分なりに精一杯努力する覚悟ですので、どうかよろしくお願い致します。

さて、ご存知のように、現在、学習指導要領の切り替え時期にあたり、昨年の小学校の「外国語活動本格実施」、今年の中学英语の「週3時間から4時間へ」、そして、来年の高校の「英語の授業は英語で」という明治以来の英語教育の歴史の中でも大きな転換期と言えるかもしれません。またこれは多くの国民の、あるいは経済界の英語教育への大きな期待の現れと言えることで、本学会としてもそれなりの対応が必要とされていると言えるでしょう。

一方、私の耳に入って来る現場の教師の皆さんの声の中でもっとも深刻なのは、過重な労働条件です。特に中学校では帰宅時間が10時、11時が普通とい

うことです。会議が夜の7時半に設定されるのも当たり前で、その後に翌日の授業の準備を行うといひます。この四月に新卒で中学校に赴任した先生も無理がたたって寝込んだというというのを聞いて、このまま見過ごして良いことなのか本当に疑問です。

しかしながら、このような労働条件の是正は本学会の役割ではありません。では本学会にできることは何でしょうか。本学会の規約を見ますと、その目的として「英語教育及びその関連領域における理論と実践の研究に努め、会員相互の連携・交流を図り、広く英語教育研究の発展に貢献すること」とあります。現場の先生方の限られた授業の準備時間を効率よく使って、生徒にとって、より良い授業を提供できるようにお手伝いすることが、本学会の目的であり、使命であると考えます。

そして、その目的をさらに具体化すると、「英語教育の理論と実践の研究に努め」の部分、研究大会や地区セミナーなどいままでもKELESが行ってきた研究成果の現場への応用や優れた実践報告からの学びをさらに発展させることでしょう。「会員相互の連携・交流を図り」の部分はいかがでしょうか。学会などでの交流も勿論ですが、各先生方が作られた様々なプリント類（予習プリント、単語テスト、Oral

interaction のスクリプト) の共有なども考えられます。CNN や BBC などの最新のビデオニュースのスクリプトを書き起こしたものを共有することなどはいかがでしょうか。英作文の添削例なども役立つのではないのでしょうか。それらを KELES のホームページにアップしたり、発刊予定の KELES JOURNAL (仮称) などを通して会員相互の連携・交流を図ることが考えられます。しかしながら、これらは私の思いつきでしかありません。会員の皆さんの要望を掘り起こし、そこからスタートすべきでしょう。

“Help us help you.” これは、元会長をされていた沖原勝昭先生が KELES のある会での学会員の皆さん

へ仰った言葉です。「どうか皆さんのお手伝いをするため、(何が必要なのかなどを言って) 私たちの学会を助けてください。」という意味かと思います。これを使わせていただき、(少し長いですが) 会員の皆さんへの要望と会長としての決意表明とさせていただきたいと思います。

“Help Us Help You Teachers Help Your Students Smile.” 学会員の皆さんの声をもとに、学会として、皆さんの力となり、そして、それが皆さんの生徒さんの笑顔を引き出す授業実現につながることを目指したいと思います。生徒の笑顔は本当に良いものですよ。

2012 年度関西英語教育学会 研究大会報告

開催日：2012 年 6 月 9 日 (土) 会場：京都外国語大学

2012 年 6 月 9 日 (土) に京都外国語大学を会場に、第 17 回研究大会が開催されました。この日は、ちょうど梅雨入りし、朝から生憎の雨模様でしたが、170 名を超える参会者があり、15 件の研究発表・事例報告のほか、ワークショップ 4 件、ランチョンセミナー 2 件、シンポジウムと盛会のうちに終了しました。ご発表の皆様をはじめ、ご参加くださった皆様、展示協賛の企業の皆様に心から感謝申し上げます。

*

ワークショップ

「中学校のコミュニケーション能力の基礎を育成する指導と評価」

兵庫県三木市立緑が丘中学校 加藤 京子先生

コミュニケーション能力の基礎を育成するには、音声中心の導入と創造的に話す・書く活動が欠かせないこと、基本的トレーニングも大切で、言語の違いや文化の違いへの興味、関心、理解を育てることも必要であると述べられ、評価や三年間の指導計画も示していただいた。本ワークショップ

でも、チャンツから入り、語彙や文、談話へと段階的な指導手順が示され、最終的には受動態を用いて自己表現を伴う活動へと進んだが、日本文化を含む国際理解や人権・人間教育の視点も盛り込まれ、加藤先生の温かいお人柄と、プロの教師としての信念と技が随所に溢れ、大変感銘を受けた。また、知的好奇心を刺激され、心を揺さぶられながら、英語学習に楽しく取り組んでいる生徒の様子が目に浮かんだ。学習指導要領に、文法はコミュニケーションを支えるものであり、実際に活用できるように指導することとあるが、生きた教材や使いたくなるタスクを用いて学べば、自然に文法が身につくのだと感じた。

「小学校外国語活動における

コミュニケーション・自己表現活動の進め方」

近畿大学 田邊 義隆先生

まず、学習活動と言語活動の違いについて話され、コミュニケーション・自己表現活動について述べられた。次に、活動設計時には、言語使用や

状況、段階的指導や内容の整合性を意識し、子どもの考えや思いを引き出し、聞き手にも思考・推測させる手だてを追加することや、活動形態を工夫することなどを具体例や活動を通して示していただいた。また、使用する語彙・表現が練習段階で定着していることを確認してからコミュニケーション・自己表現活動に入ること、モデルを示して説明し、展開を十分理解させた後に練習させ、正確性より言語使用の滑らかさを重視することを強調された。ジェスチャー、科目、日課といった話題で、楽しい活動を体験したり、田邊先生自らの授業ビデオを見せていただいたりしながら、意味やメッセージのやりとりを中心に、子どもが自信を持って気持ちや考えを伝え、達成感や自己肯定感を味わうような活動を展開しなければならないと考えさせられた。

報告者：泉 恵美子（京都教育大学）

「4技能を統合的に伸ばす授業のヒント」

立命館宇治高等学校 東谷 保裕 先生

来年度の新学習指導要領の実施にあわせ、「4技能を統合的に育成する指導の充実」が求められている中、インプットからアウトプットに繋がる様々な指導方法をご紹介いただきました。また、ご勤務されておられる立命館宇治高等学校で実施されている授業の一部を体験しました。

題材にはオバマ大統領のスピーチが取り上げられました。はじめに、スクリプトなしで、スピーチを聞きました。東谷先生が「今日はこれを覚えて帰っていただきます」とおっしゃられると、ご参加の先生方から驚きの声が上がりました。その後、チャックでの学習や様々なスタイルのペアワークをご紹介いただき、そのうちのいくつかを実際に体験し、その効果を実感することとなりました。最後は代表として1名の参加者がすばらしく暗唱してくださいました。

授業へのヒントが各所にあり有意義なご講義であったとともに、東谷先生のテンポのよい授業進

行と巧みな話術に本当に魅了されました。

報告者：平井 愛（京都精華大学）

「コミュニケーション能力育成のための ステップとクラスづくり」

神戸大学附属中等教育学校 竹下 厚志 先生

竹下先生は、神戸市の公立中学、高等学校で長らく教鞭をとられ、2008年の「英語が使える日本人」育成のための東京フォーラムでは、クラスの高校生を連れてステージの上で模擬授業をされ、ご存知の方も多いことと思います。当日は、生徒個人のコミュニケーション能力の育成を狙った、ペア、グループ、クラスといった集団を生かした「高校英語クラス」づくりの視点を披露され、集団的成長により、個人の英語の力量を伸ばし、生徒の“My English”の構築を目指すクラスづくりのお話を頂戴しました。また、クラスづくりに先立って、高校1年のスタート時に、中学の教科書を題材に、生徒の英語力を把握し、高校での英語の勉強方法を教えるという、竹下先生ならではのワークショップも紹介されました。最後に、会場で隣り合わせた、先生のお人柄を慕って参加した当時の教え子と模擬授業（映像）を拝見し、先生のクラスづくりの成果を、映像と隣席の教え子のお話で堪能しました。

報告者：大嶋 秀樹（滋賀大学）

*

ランチョンセミナー

「Instructed SLA の課題と展開」

兵庫教育大学 山岡 俊比古 先生

第二言語習得研究の歴史と現状と展望とを一度に見ることができた濃密な一時間だった。ご本人曰く「ごりごりの認知主義者」である山岡先生は、認知主義をメインストリームとしながら、社会文化理論などのオルタナティブアプローチの影響を受けて発展してきた Instructed SLA の歴史を、多くの研究事例を紹介しながら、まるで物語のナレーターのように語られた。先生の「ナレーターの

声」に時折交じる「本音のつぶやき」が、会場に笑いの波を誘い、真剣ながらも和やかなセミナーとなった。

社会文化理論に基づく研究成果の一定の貢献を認めつつも、詰まるところ、学習者が言語を学んでいる時に何が起きているのかを知るためには、認知主義的なアプローチが必要であり、Social turnと言われた時代を経た現在、Instructed SLAの研究は今後再び認知主義への回帰を果たすのではないかという展望を本セミナーの結論とされた。

報告者：今井 裕之（兵庫教育大学）

「外国語教育において ICT・国際交流は いかなる役割を果たすか」

関西大学 吉田 信介 先生

新学習指導要領において、「生きる力」の育成が求められている中、先生の取り組みは、ICT（TV会議・eメール等）を用いて、日本人学生とアジア諸国の学生でグループを組み、英語を用いた「国際協働プレゼンテーション」の作成・発表を通して、コミュニケーション能力を始めとする、国際社会で生きる上で欠かせない能力の育成等を図るものであった。

コンフリクトを解決するための交渉方略モデルの適用や、議論を促進させるファシリテーターの配置等、交流を進めるための様々な工夫をお伺いすることができた。また、発表風景の映像から、仲間と協働して作り上げたプレゼンを堂々と発表する生徒の姿が印象的だった。先生のご発表は、外国語教育に ICT・国際交流を取り入れる意義と、その可能性を大いに示されたものであった。

報告者：鳴海 智之（神戸大学大学院生）

*

シンポジウム

「高校英語授業を変えよう！

～実現可能な処方箋を求めて」

東京学芸大学 金谷 憲 先生

昭和女子大学 臼倉 美里 先生

東洋大学 大田 悦子 先生

中学英語授業はいろいろな授業モデルが存在します。しかし、高校英語授業は、文法訳読式授業以外、明確な授業モデルがありません。本シンポジウムでは、高校英語教育を改善しようと、金谷先生、臼倉先生、大田先生、そして、東京学芸大学の高山芳樹先生らが提案しておられる「訳読オンリーから抜け出す3つのモデル」が、実際の授業の進め方と教材の実例とともに紹介されました。3つのモデルとは、「パラグラフ・チャート活用型授業」、「日本語サマリーを活用した Two-Way Translation 活動」、「縮約版を利用した2度読み」です。（詳細については、アルク発行の金谷憲（編著）『高校英語教育法 高校英語の授業マニュアル 訳読 Only からの Takeoff』をご参照ください。）どのモデルも、教師であれば誰もが使えるシンプルなものです。モデルは示されました。あとは先生方が、勤務校の生徒の実態を考慮して、適切と思われるモデルを選んで実践し、生徒の反応を観察しながら、適切な修正を加えて、長期間取り組めば効果が期待できるでしょう。最後に、高校生の英語力を伸ばすためには、適切な指導法とともに、生徒の学力に合った教科書を選ぶことも大切であることを強調しておきたいと思います。

報告者：鈴木 寿一（京都外国語大学）



2012 年度関西英語教育学会 総会報告

開催日：2012 年 6 月 9 日（土） 会場：京都外国語大学

2012 年度総会では、議長に加藤雅之先生（神戸大学）が選出され、2011 年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2012 年度活動計画および予算案などについて報告、提案がなされ、承認されました。

1. 2011 年度活動報告

(1) 研究大会等

◆関西英語教育学会 2011 年度(第 16 回)研究大会

日程：2011 年 6 月 4 日（土）9：00～17：00

場所：関西大学・千里山キャンパス

内容：研究発表・事例報告 18 件、ワークショップ：

「教科書を活用して統合的な授業を行う」（講師：磯田貴道、広島大学）、シンポジウム「数値目標至上主義の時代をどう乗り越えるか？—本当に学習者のためになる英語教育実践を続けるために」（コーディネーター・提案者：鈴木寿一、京都外国語大学、提案者：溝畑保之、大阪府立鳳高等学校・平尾一成、大阪府立寝屋川高等学校）

◆第 37 回全国英語教育学会山形研究大会

期日：2011 年 8 月 20 日（土）・21 日（日）

会場：山形大学・小白川キャンパス

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

後援：山形大学、山形県教育委員会、山形市教育委員会、山形県英語教育研究会

担当地区学会：東北英語教育学会

参加者数：653 名

(2) セミナー・共催行事

◆関西英語教育学会 第 23 回セミナー（京都・滋賀地区）

日時：2011 年 11 月 6 日（日）13：00～16：30

会場：京都教育大学 F 棟 1 階 12 教室

テーマ：英語コミュニケーション能力の基礎をどう育成すべきか？

内容：「生徒の間違いを減らしませんか —Intake Reading のすすめ—」（講師：斉藤栄二、京都外国語大学）、「コミュニケーションに活かす文法指導 —意味順指導法の提案—」（講師：田地野彰、京都大学）、「思考力と表現力をつなげる協同的な言語学習」（講師：今井裕之、兵庫教育大学大学院）

◆関西英語教育学会 第 24 回セミナー（大阪・兵庫地区）

日時：2011 年 12 月 18 日（日）13：00～16：30

会場：龍谷大学・大阪梅田キャンパス 14 階

テーマ：英語音声指導を成功させるためにできること

内容：「英語音声指導を成功させるための 10 のポイント」（講師：門田修平、関西学院大学）、「実践！英語のリズム・イントネーションの指導」（講師：大和知史、神戸大学）、「楽しみながら教えよう！英語の発音のしくみ」（講師：里井久輝、龍谷大学）

◆関西英語教育学会 第 25 回セミナー（奈良地区）

日時：2012 年 1 月 29 日（日）12：40～17：45

会場：天理大学・柚之内キャンパス

テーマ：英語授業の〈標準（当たり前）〉を見直す

内容：実践発表 1「新米教師の通信簿—出来たこと、出来ないこと—」（講師：中小野一八、橿原市立畝傍中学校）、実践発表 2「小学教員を目指す高校生のための音声活動を中心とした指導」（講師：阪田安弘、奈良県立高田高等学校）、実

実践発表 3「英語科全体の協働的取り組み：統一シラバスの作成を目指して」（講師：山本享史、成瀬美沙、齊藤元康、天理高等学校）、ワークショップ“To use tech or not to use tech: is this even the right question?—英語教育：ハイテクかローテクか、それが問題か?—”（講師：Matthew Apple、奈良工業高等専門学校）、講演「目からウロコの教師塾：英語授業自己診断テスト—自己評価を通じた授業改善へのアドバイス—」（講師：鈴木寿一、京都外国語大学）

共催：天理大学

◆第15回卒論修論研究発表 セミナー

日時：2012年2月11日（土・祝）

会場：京都外国語大学

発表件数：卒業論文15件、修士論文28件（ポスター発表7件を含む）、計43件

スペシャル・トーク：「教育とリサーチの接点をどう図るか」（講師：深澤清治、広島大学大学院教育学研究科）

共催：大学英語教育学会関西支部、外国語教育メディア学会関西支部

参加者数：176名

(3) 広報、発行

◆学会ニュース・レター：年3回発行（5月、10月、

3月）のほか、電子メールによる情報配信。

(4) 刊行物

◆紀要『英語教育研究』第35号刊行（紀要編集委員会）

発行日：2012年3月31日発行

応募論文：22編、掲載論文：研究論文9編、実践報告2編、計11編

(5) 会議等

◆幹事会：6月4日、10月15日、1月25日、2月10日、3月10日、4月29日

◆理事会：12月18日（拡大理事会）、4月29日

◆紀要編集委員会：メール会議随時

◆全国英語教育学会理事会：8月19日、3月24日

◆全国英語教育学会紀要編集委員会：8月19日

※その他、随時メール幹事会議および会長、副会長、幹事長、紀要編集委員長による臨時会議を実施。

▶ 2011年度決算報告

2011年度の収入・支出は次の表のとおり。原案通り承認されました。

2011年度関西英語教育学会決算報告

収入の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	内 訳
前年度繰越金	3,799,185	3,799,185	
学会費	3,000,000	2,363,000	一般会員（全国とも）@7,000×233名 一般会員（関西のみ）@5,000×65名 全国のみ 2,000円×1名 学生会員（全国とも）@5,000×57名 学生会員（関西のみ）@3,000×8名 賛助会員 @12,000×8件
参加費	340,000	271,000	関西英語教育学会第16回研究大会、KELESセミナー（第23回～第25回）、第15回卒論・修論研究発表セミナー
論文集販売	40,000	10,580	紀要DVD@3,000円×3枚 文献複写代1,580円
その他	15,000	60,964	JASELEより補助費（全国大会要項発送費補助）、預金利子
合計	7,194,185	6,504,729	

支出の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	内 訳
通信費	500,000	206,050	各種郵送代 (ニュース・レター・学会紀要・レターパック・切手代)
研究費	600,000	540,964	講師謝礼、作業補助謝礼 (研究大会、各種セミナーなど)
印刷費	650,000	581,836	学会紀要、第 15 回卒論・修論研究発表セミナー論文集、はがき印刷
会議費	250,000	77,985	会議諸経費 (会場費、アルバイト雇用、その他)
交通費	150,000	0	全国理事会旅費、幹事会旅費
事務費	150,000	43,716	文具代、コピー代、用紙代、インク代、その他
全国年会費	600,000	580,000	2,000 円×290 名
雑費	0	0	
予備費	0	0	
次年度繰越金	4,294,185	4,474,178	
合 計	7,194,185	6,504,729	

2. 2012 年度活動計画

(1)2012 年度役員体制

総会に先立ち、吉田信介先生 (関西大学) の任期満了に伴う会長選挙が行われました。「関西英語教育学会会長選挙に関する細則」により、選挙管理委員長に清水裕子先生 (立命館大学)、3 名の選挙管理委員に野澤健先生 (立命館大学)、加賀田哲也先生 (大阪教育大学)、河内山真理先生 (関西国際大学) が選出され、規定に則り選挙手続きが進められました。その結果、被推薦候補者の村田純一先生 (神戸市外国語大学) が、信任票多数で新会長に選出されました。

*

会 長

村田 純一 (神戸市外国語大学)

副会長

清水 裕子 (立命館大学)

顧 問 (5名)

沖原 勝昭 (京都ノートルダム女子大学)

織田 稔 (元関西大学)

齊藤 栄二 (京都外国語大学)

瀬川 俊一 (京都府立大学名誉教授)

宮本 英男 (元同志社大学)

幹事長 (副会長兼務)

横川 博一 (神戸大学)

紀要編集委員長

鈴木 寿一 (京都外国語大学)

幹 事

大嶋 秀樹 (滋賀大学)

橋本 健一 (近畿大学)

森下 美和 (神戸学院大学)

大和 知史 (神戸大学)

理 事

赤松 信彦 (同志社大学)

泉 恵美子 (京都教育大学)

今井 裕之 (兵庫教育大学)

門田 修平 (関西学院大学)

佐久 正秀 (大阪信愛女学院短期大学)

里井 久輝 (龍谷大学)

高見 砂千 (大阪市教育センター)

谷村 緑 (京都外国語大学)

玉井 健 (神戸市外国語大学)

中井 弘一 (大阪女学院大学)

中井 英民 (天理大学)

中野 陽子 (関西学院大学)

長谷 尚弥 (関西学院大学)
平井 愛 (京都精華大学)
真崎 克彦 (兵庫教育大学附属小学校)
藪内 智 (京都精華大学)
山本 玲子 (大阪国際大学)
吉田 信介 (関西大学)

紀要編集委員

野澤 健 (立命館大学)
西本 有逸 (京都教育大学)
溝畑 保之 (大阪府立鳳高等学校)

会計監査

河内山真理 (関西国際大学)
吉田 晴世 (大阪教育大学)

(2)研究大会

◆関西英語教育学会 2012 年度(第 17 回)研究大会

日程：2012 年 6 月 9 日 (土)
場所：京都外国語大学・1 号館 6 階
内容：ワークショップ 4 件、ランチョンセミナー 2 件、シンポジウム 1 件、研究発表・事例報告 15 件。

◆第 38 回全国英語教育学会愛知研究大会

▶ <http://www.jasele2012aichi.jp/>
期日：2012 年 8 月 4 日 (土)・5 日 (日)
会場：愛知学院大学・日進キャンパス (〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12)
主催：全国英語教育学会 (地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会)

担当地区学会：中部地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：課題研究フォーラム (2 年間継続の 1 年目)「英語運用能力はいかに自動化されるか?—基礎研究と授業実践のインターアクション—」コーディネーター：横川博一 (神戸大学)、提案者：吉田晴世 (大阪

教育大学)、原田康也 (早稲田大学)、竹内理 (関西大学)、定藤規弘 (自然科学研究機構・生理学研究所)

(3)セミナー・共催行事

※日程変更の可能性あり。いずれも会場未定。詳細は学会配布物およびホームページにてお知らせいたします。

◆関西英語教育学会 第 26 回セミナー

日程：2012 年 11 月 4 日 (日)

◆関西英語教育学会 第 27 回セミナー

日程：2012 年 12 月 23 日 (日)

◆関西英語教育学会 第 28 回セミナー

日程：2013 年 1 月 27 日 (日)

◆第 16 回卒論修論研究発表セミナー

日時：2013 年 2 月 9 日 (土)

(4)紀要『英語教育研究』

◆第 36 号刊行 (紀要編集委員会)

(5)課題研究プロジェクト

◆「英語運用スキルの自動化を図る理論的・実証的研究」(プロジェクト・リーダー：横川博一・神戸大学、研究期間 2011 年度～2013 年度、3 か年)

◆新規採択 1 件

(6)授業研究プロジェクト

◆新規採択 1 件程度

(7)研究会(仮称)

◆2012 年度中に研究会を立ち上げる予定。

(8)学会会員情報誌 KELES JOURNAL(仮称)

◆2013 年 3 月に創刊号を刊行予定。

(9)広報、発行

◆ニュース・レター年 4 回発行 (7 月、9 月、12 月、3 月の予定)、メールによる情報配信随時。

▶ 2012 年度予算案

2012 年度の予算案は次の表のとおり。原案通り承認されました。

2012 年度関西英語教育学会予算

収入の部

項 目	予算額 (円)	内 訳
前年度繰越金	4,474,178	
学会費	2,600,000	全国英語教育学会会費を含む
参加費	300,000	関西英語教育学会第 16 回研究大会、KELES セミナー、第 15 回卒論・修論研究発表セミナー
論文集販売	20,000	紀要 DVD、学会紀要、卒論・修論研究発表セミナー予稿集
その他	50,000	寄付、利子、展示料、論文コピーサービス、その他
合 計	7,444,178	

支出の部

項 目	前年度決算額 (円)	予算額 (円)	内 訳
通信費	206,050	250,000	各種郵送代 (学会紀要、KELES ジャーナル、ニュース・レター、レターパック・切手代、その他)、学会ドメイン登録費・HP メールフォーム更新費
研究費	540,964	950,000	講師謝礼、作業補助謝礼 (研究大会、地区セミナー、卒論修論セミナー)、研究プロジェクト経費
印刷費	581,836	1,170,000	学会紀要・紀要抜刷、KELES ジャーナル、第 16 回卒論修論研究発表セミナー論文集、ニュース・レター、学会封筒印刷など
会議費	77,985	250,000	会議諸経費 (幹事会・理事会・会場代・奈良地区セミナー運営費、その他)
交通費	0	150,000	全国理事会旅費、幹事会旅費、その他
事務費	43,716	610,000	文具代、学会封筒、コピー代、用紙代、インク代、その他
全国年会費	580,000	640,000	2,000 円×300 名
全国英語教育学会事業基金積立	—	400,000	
予備費	0	200,000	
次年度繰越金	4,474,178	2,824,178	
合 計	6,504,729	7,444,178	

学会事務局からのお知らせ

◆関西英語教育学会 学会誌『英語教育研究』(SELT) 第 36 号 投稿論文募集のお知らせ

関西英語教育学会 (KELES) では、学会誌『英語教育研究』第 36 号への論文投稿を下記の通り募集しております。

2012 年度に開催された関西英語教育学会研究大会および全国英語教育学会第 38 回愛知研究大会での発表論文が優先されますが、これらの発表を経ない論文についても、一定の枠内で審査対象となります。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

投稿受付期限

2012年8月31日(金) ※受信時刻 23:59 (厳守)

投稿にあたって

学会ホームページ (<http://www.keles.jp/selt/>) の投稿要領を熟読し、テンプレート(英語・日本語)を7月17日(火)以降にダウンロードし、テンプレートに書かれている諸注意も熟読の上、テンプレートを用いて原稿を作成し、**紀要編集委員長宛に投稿論文を添付して電子メールで送付してください。**学会ホームページ <http://www.keles.jp/selt/> の投稿フォームから投稿してください。

発行規定および投稿要領改正の主な改正点

以下の点が、第35号より改められました。

- (1) 掲載論文が、「投稿論文」と「研究ノート」の2種類になりました。

投稿論文は、英語教育および広く言語教育に関する理論的・実証的研究論文とし、英語授業実践に関する報告は、研究ノートとします。

- (2) 論文の分量が変更されました。

論文分量は10ページ以上20ページ以内、研究ノートは10ページ以内とし、いずれもページ数に参考文献、図表、註、資料を含めます。

投稿先および学会誌に関するお問合せ先

- (1) 投稿先：学会ホームページ

<http://www.keles.jp/selt/> の投稿フォームから投稿してください。

- (2) 投稿した日から2日以上経っても、受領確認のメールが届かない場合は、紀要関係のお問い合わせフォームにて問い合わせして下さい。

◆全国英語教育学会第38回研究大会

全国英語教育学会第38回愛知研究大会が、2012年8月4日(土)・5日(日)に、愛知学院大学(日進キャンパス)において開催されます。

詳細は、次のサイトをご覧ください。

URL : <http://www.jasele2012.aichi.jp/>

◆学会費納入のお願い

2012年度分の学会費が未納の方は至急納入をお願いいたします。

◆各種お問い合わせフォームについて

お問い合わせには、学会ホームページの各種お問い合わせフォームをご利用下さい。

URL: <http://www.keles.jp/>

▶会計関係お問い合わせフォーム

年会費の送金、過去の年会費の納入状況、「10周年記念紀要DVD」等についてのお問い合わせに本フォームをご利用下さい。

▶名簿関係お問い合わせフォーム

入退会に関するお問い合わせ、会員情報(住所・電話番号・電子メール)更新等には本フォームをご利用ください。

▶紀要関係お問い合わせフォーム

関西英語教育学会(KELES)学会誌『英語教育研究』(SELT)、卒論・修論研究発表セミナーに関するお問い合わせには本フォームをご利用ください。

▶その他学会全般に関するお問い合わせ

学会ホームページ「事務局お問い合わせフォーム」をご利用下さい。または、学会事務局 yokokawa@kobe-u.ac.jp 宛(横川)までご連絡下さい。

